

令和8(2026)年度 第1回下都賀地区教育相談連絡会研修会を開催しました

日時：令和8(2026)年5月21日(木)

会場：小山市桑市民交流センター マルベリー館

参加者：・下都賀地区各市町教育相談機関の関係者

・下都賀地区各市町教育支援センター担当者

・下都賀地区各市町教育委員会教育相談関係担当者

・県南健康福祉センター福祉指導課・健康支援課担当者

・各市保健福祉部・福祉事務所福祉部家庭相談員

・栃木県教育委員会SSW

・下都賀地区小・中・義務教育学校教育相談担当者又は不登校児童生徒に関わる教職員

1 研修内容について

- 目的 下都賀地区管内の教育相談機関、教育支援センター及び小・中・義務教育学校の連携を密にし、児童生徒の健全育成を図る。
- 内容 講話 『子どものネット依存の理解と適切な支援』～医学的視点から考える背景理解と対応～
講師 独立行政法人国立病院機構久里浜医療センター 名誉院長 樋口 進 様

2 本研修で学んだこと(参加者が記入した〈研修の振り返り〉から抜粋)

- 若年者のゲーム依存の現状について理解を深めることが出来ました。特に発達特性をもつ児童生徒は過集中や我慢が出来ないという特性から、依存症になるリスクが高く、ルール作りや、ゲームの代替えを考える、家族のコミュニケーションを多くする等、いかに依存症を予防できるか考えることの重要性を知りました。このような研修会で得た知識を保護者や生徒たちへ伝えること、そして、生徒たちの発言や体調不良の背景にスマホやゲームに依存しそうな様子を察知した場合には、保護者に伝える、また、SSW、SC など関係職員で協力して、依存症の予防に努めることや、場合によっては医療につなげるといった支援を行うことも必要だと思いました。
- 依存症は回復できる病気であること。ゲーム・スマホ・ネットは0にするのではなく、「減らす」。減らせることができれば、再発はしない。それらの話がとても参考になりました。そのためにも、学校に来ることができれば、大きな前進になるということ。私たちも、子どもたちの将来の社会的自立につながる支援を続けていきたいと思いました。
- 以前からゲーム依存症について興味があり、久里浜医療センターや樋口先生の資料を読んでいました。リアルタイムで話を聴くことができて、とても感激しています。現任校で、ゲーム依存気味のお子さんがいて、家庭環境や本人の学力低下が原因と考えられる節があります。研修会の話聴いて、頷けるところが多かったように思います。これからも多視点から子どもを見つめることができるように努力していきたいです。
- 子どもたちはネットを通じて安心感や居場所を見出していることもあり、一方的に使用を否定するのではなく、その意味や役割を理解する視点の重要性を感じた。子どもの気持ちに寄り添いながら一緒に考えていく関わりが求められると感じた。今後は、子どものネット利用の背景にある思いや状況に目を向け、安心して相談できる関係づくりを大切に支援を行っていきたい。

- スマホの利用時間と学力、発達の関係性を啓発するために、学校から様々な形で情報を発信していくべきだと思いました。ただ、生活の一部となっているスマホとゲームを一律制限することはご家庭にとって非常に負担であると感じます。ルールの作り方を学校と家庭が連携協力しながら進めていくなど学校という立場でご家庭へどんな協力ができるか今後も模索していくべきだと思います。また、学校での居心地の悪さによって、ゲーム依存という治療困難な状況を誘発する事態を避けるためにも、学業指導やいじめ撲滅など生徒指導の立場で学校内の安全・安心に努めていきたいと思っています。
- 専門的立場からの講話、ネット依存の理解とどう支援していくかを聴くことができ参考になりました。校内でも講話内容を共有し今後に生かしていきたいです。また、グループでの情報交換が他校の様子や立場の違いからのアドバイスが参考になりました。新しい人脈にもつながりました。下都賀教育事務所長のあいさつの中での「子どもの声なき叫び」を大切に、養護教諭として関わってきたいです。
- 各市町の多様な立場の方々とお話できることにとても魅力を感じています。様々な関係機関の方々と連携して対応にあたるのが、問題解決の近道となることが多いので、これからもこういった機会を捉えて、自分自身の自己研鑽と人脈づくりに努めたいです。
- 班別協議では、自分と異なる立場の先生方と協議することができた。児童生徒の社会的自立とは何なのか、それを達成するためには学校だけでなく他機関と連携しなければならないこと、そして子どもにとっての最善の利益を追求するために、子どもの背景を適切にアセスメントしなければならないことなどについて話をするのができ、非常に参考になった。
- 班別協議では、多方面の方と話ができて、様々な考えを知ることができました。子どもや保護者が相談に来てくれたことが、改善の第一歩であること、今だけでなく、先を見据えた支援が大切であることなどに気付かせていただきました。
- 子どもの発達の段階や心の状態に応じて求められる支援は異なるということ、最終的にどこまでの社会的自立を目指すべきなのか等について、異なる校種やお立場の先生の話聞くことができ、大変勉強になりました。今回の研修会で学んだことを自校に持ち帰り、共有・発信していきながら、今後の教育活動に活かしていきたいと思っています。
- 班別協議では、それぞれの立場の思いや活動について共有することができました。SSWの方が、「学校で抱え込まず、問題が重症化する前に早めに介入させてほしい」とお話しされていて、SSWへの認識が変わりました。チーム学校で連携して問題に対応できるよう、日頃からコミュニケーションをとる機会があると良いと思いました。
- 普段関わることの少ない方々と子供の依存症というテーマのもの、幅広い議論ができた。日々の業務の中で、児童生徒に直接的な関わりはないが、心の悩み相談事業などを通じて、広域的に見守り・サポートをしていけたらいいと思う。

